

前期号

ボラゴン

龍谷大学ボランティア・
NPOセンター



Q.そもそもボラセンってどんなところ？

龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター、通称ボラセンは大学の部署の一つです。龍大生・教職員にボランティアを広めることを第一目標として活動しています。職員と学生スタッフ(以下、学スタ)がいて、協働でセンター運営に携わっています。



▲成就館へ入ってすぐに見える看板が目印！

Q.ボラセンでは何ができるの？

1. ボランティア相談

来室した龍大生や教職員の希望を聞きながら、相談者にぴったりのボランティアを探し紹介します。学スタの体験談やオススメを聞くこともできます。

2. 傘・書籍を借りる

ボラセンではリユース傘と、様々な分野の社会問題に関する書籍や雑誌の貸し出しを行っています。急な雨の時はぜひボラセンまで！

3. 講座の申し込み

ボランティア入門講座やリーダー養成講座、国内外での様々な体験プログラム、コーディネーション力3級検定など、ボラセンでは一年を通して多様な講座を開催しています。



▲ボランティア紹介中。
様々なボランティアが、あなたの参加を待っています！

(文学3・喜多/経営2・小倉)

《学生スタッフの活動》

学スタの主な活動内容は、ボランティアコーディネートです。ボランティアコーディネートとは、ボランティアを探しに来た方にオススメのボランティアを紹介することです。学スタはシフトを組み、コーディネート(以下、コーデ)や情報整理、活動の準備などを行っています。

また、コーデを充実させるために班活動も行っています。実際にボランティアに参加しセンター内で情報を共有するアクティブ班、ボラセンの広報のために広報誌やポスターなどの作成・SNSでの投稿を行う広報班、シフトを組み学生スタッフがコーデしやすい環境を作るコーデ班の三つの班に分かれて活動しています。学スタは必ずどこかの班に入ることとなっているほか、学スタ主導で新しい企画を考えたり、実際にボランティアに参加したりするなど、幅広く活動できます。



▲シフト中の様子。来室する皆さんを学生スタッフがお迎えします！

《ボラセン主催企画》

ボランティア・NPO活動センターでは、年間を通して様々な活動を行っています。昨年はコロナ渦でありながらも、安全対策を考慮した上で、オンラインと対面を併用しながら活動しました。

昨年のオンラインの活動としては、東日本大震災の現状、当初の体験談を現地の人から直接聞いたオンラインツアーや、国外の問題に目を向けた海外スタディツアー、地域の方々と交流を深める事ができる深草ふれあいオンラインへの動画出展等をおこないました。

また対面では初めてボランティア活動をする人向けのボランティア入門講座や、龍大生に社会問題やセンターについて知ってもらう事を目的とした展示イベントなどを開催しました。今年度は対面での活動を充実させていきたいです。



▲様々なボラセン企画の様子！

(文学2・的場/法学3・西上)

ボランティア情報

体験談①

私は、京都駅近くの梅小路公園内で開催されるプレイパークのボランティアに参加しました。

活動内容は主に、プレイパークに遊びに来る親子・子どもと一緒に遊ぶ外遊びです。コマやけん玉、折り紙を試行錯誤しながら一緒に楽しみ、ドッジボールや鬼ごっこなどの集団遊びも行いました。

私にとって初めてのボランティア活動でしたが、担当者の方や一緒に行った学生の方と共に子どもたちとの関わり方を話し合いながら活動することができ、どうしていいかわからないというようなことはありませんでした。また、子供たちが楽しそうに遊んでいるところを見ると、私たちも楽しいと感じることができ、気が付くと一緒になって夢中で遊んでいました。大学生になってからはなかなかできない「一日中外で遊ぶ」という体験は新鮮です。

ボランティア未経験の方にもおすすめなので、興味のある方はぜひ参加を！



体験談②

私は2月27日（日）に開催された大阪マラソンにボランティアとして参加しました。ボランティア内容は選手の走るコースや沿道にコーンを設置し、テープを貼り、選手を応援する沿道の観客の方々の見守りをしました。

一般でボランティアに参加されている方々と合流し、話しながら協力して作業をし、初対面でも活動しやすく、仲間意識が芽生えました。走っている選手を最も近くで観戦することが出来、普段マラソンを見る機会のない私も楽しめ、ボランティアとして参加していないと体験することのできない貴重な経験をすることが出来ました。

体験談③

私が参加したのはプラネットというボランティアです。プラネットとは自閉症という障がいを持つ方と一緒に余暇支援を行う活動です。活動内容は季節によって様々で、例えばみんなで公園を散歩したり、お餅つきをしたりします。

私がこのボランティアに初めて参加したきっかけは、一回生の時に先輩が誘ってくれたからです。ただこれまで自閉症の方に会ったこともなかったし、最初は少し怖いなと思いながらどう話したらいいか不安でいっぱいでした。でも実際に活動してみると全然違うんです！！自閉症の方々には、みんなそれぞれに個性や特徴があり、活動していく中で少しずつできることが増えていきます。その変化を見られるのがすごく嬉しくて、本当に自分も元気をもらえるので、また行きたいなと思いました。なお、プラネットでは自閉症の方々の親御さんも一緒に来てくれるので、ボランティア経験のない方でも安心して活動することができます！！

社会の中には色々な人がいます。、自閉症の人ってこういう特徴があるんだということをこのボランティアを通して知っておくと、その人たちに出会った時に自分の偏見を勝手に押し付けたりせずに理解が生まれます。興味がある方、ぜひ体験してください！！



今回は以上の三つの体験談を載せましたが、他にも学生スタッフは様々なボランティア活動に足を運んでいます！！他のボランティア活動はどんなことをしているのか、その体験談が少しでも気になったら、ぜひ成就館にあるボランティアセンターに来てください！！

(経済2・小木曾/文学2・馬越/文学3・グエン/法学4・竹内)

学スタにインタビュー！



(文学2 山下)

Q. 今までどんなボランティアに参加して、何を感じた？

A. 子どもと一緒に遊ぶボランティアに参加しました！どのように接すれば子どもたちが喜んでくれるのかを考えることと、子どもたちとお話をするときは目線を合わせる大切だと学びました。そして何よりも子どもたちの笑顔は、自然と周りを幸せにすると感じました。

Q. 学生スタッフをやっていて楽しかったことは？

A. 普段の授業などでは体験できないことを経験し、新たな技術が身につけられたことです！具体的には、活動の中で動画制作をしたのですが、その中で編集やナレーションなどに初めて取り組み、それに関する技術を身につけられました。



(政策3 松本)



(文学3 西村)

Q. 成長したと思うことは？

A. 積極性が増して、人と話せるようになりました！今まで知らなかった、新しい世界があることを知り、それを踏まえてたくさんの人と交流し意見を言えるようになりました！

(国際2・大渡/文学3・岡)

Q. 現学スタが知っている、これだけは伝えたいボラセンの魅力はなに？

A. ボラセンの企画を一緒に作ったり、ボランティアと一緒にいたり、いろんなことを共に経験したりする中で、かけがえのない仲間ができることです！



(経済3 三野)



(経営2 影裡)

Q. ボラセンに入る前後で印象の違いはあった？

A. 私がボラセンに入る前は、漠然と真面目そうという印象で、みんな頑張ってボランティアに参加していると思っていました。でも実際は何気ない話で盛り上がったり、先輩にご飯に連れて行ってもらったりと、真面目に活動するだけではない、緩く居心地の良い場所でもあると感じています！

Q. 参加したボランティア団体さんへどんな印象を持っている？

A. 参加して感じたことは、ボランティア団体さんの多くが善意で活動されていますが、金銭的余裕がない場合が多く、経営が大変であるということです。また、障がいを持っている方の親族の方などが現状を広めていこうと活動されている団体さんも多いと感じています。

(文学3・井関/政策2・奥田)

